

高校生ものづくりコンテスト2010東北大会【山形大会】
兼 第10回高校生ものづくりコンテスト全国大会予選会
[電気工事部門]

山形県立鶴岡工業高等学校
事務局 平 山 豊

1 はじめに

当部門は本校を会場に8月5日（木）、6（金）の2日間に渡ってコンテストを実施した。

今大会には開催本県2名と他5県代表1名の6校7名の参加があった。

大会運営にあたっては、県内電気関係科部会の先生方に加え、審査員に株式会社ユアテック2名の先生方に御協力を頂いた。



写真1（開会式の様子）

2 競技

本大会では、基本的に全国大会に準じた課題と採点方法を採用したが、全国大会の競技規則等で不明な点もあったため審査員と相談の上、若干の東北独自ルールを取り入れて競技を進めることにした。

3 結果

順位	学校名 (学年 学科)	氏 名
1	青森県立十和田工業高等学校 (3年 電気科)	小林 倭
2	岩手県立黒沢尻工業高等学校 (3年 電気科)	伊藤 恵太
3	秋田県立湯沢商工高等学校 (3年 電子機械科)	佐藤 慎平



写真2（競技の様子）

4 おわりに

今年度の課題は、制限時間内に完成させることが困難な課題であった。しかし、各県の予選を勝ち抜いた代表選手の技術力は非常に高く、全員が作業打ち切り時間内に完成させることができた。これは、作業効率を高めるために選手各自が持参した自作の治具や作業台の効果が大きいようであった。県大会で特別な治具を使用している選手はほとんど見かけないが、今後、作業時間の短縮に向けた治具や作業台の研究も必要になるのではないかと考える。

本県代表の鶴岡工業高校の檜山雄希君、本間龍登君は残念ながら入賞することはできなかった。両選手とも高い技術力は有しているものの、全国や東北で結果を残すためには、いかにルールに忠実な作業を進められるかが重要である。そのためには、指導者がルールや減点内容を熟知し、日々の練習から細部に渡る細やかな指導をしていく必要があると感じた。特に、東北大会の審査では、ケーブル・PF管の浮きや図面寸法との差に対する許容範囲が非常に小さく、これらの減点を解消しないと上位大会で勝つことはできないと感じた。